

野菜の需給・価格動向レポート(平成31年2月12日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

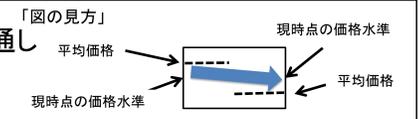
※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	1月の価格情報					2月の価格情報		2月の主産地	生育及び価格の2月下旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格			(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	1月下旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率				
		上旬	中旬	下旬						
葉茎菜類	キャベツ	96.86	82	91	96	96.86	・7.490t (87%)	愛知(64)、千葉(15)	↓	愛知産及び千葉産は、12月下旬以降の少雨や冷え込みの影響により生育は停滞していることから、現在の出荷は平年を下回るものの、最近の降雨により生育は回復傾向にあることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 12月下旬から出荷量が減少し徐々に値を上げて現在平均を上回る価格は、愛知産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を上回る価格は、今後は平均並みで推移する見込み。
		92.10	74	82	87	92.10	・2.510t (69%)	愛知(52)、大阪(15)		
	たまねぎ	82.13	119	126	135	82.13	・6.934t (87%)	北海道(81)	→	北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっている中で、傷みが発生したことにより商品化率が低下したことから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回る価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		82.13	115	129	131	82.13	・2.963t (88%)	北海道(71)		
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	265.64	304	249	216	265.64	・2.450t (112%)	千葉(44)、埼玉(24)	→	千葉産は、天候に恵まれて前進傾向であった生育が、12月下旬以降の少雨により生育が緩慢となっているものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 1月下旬から出荷量が減少し徐々に値を上げて現在平均並みの価格は、千葉産及び埼玉産の出荷が平年並みと見込まれることから、引き続き平均並みで推移する見込み。
		473.04	432	353	322	473.04	・186t (113%)	徳島(30)、奈良(14)、香川(10)		
	はくさい	64.18	39	37	36	64.18	・6.711t (127%)	茨城(64)、兵庫(18)	→	茨城産及び兵庫産は、天候に恵まれて生育が前進していることに加え、大玉傾向となっていることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 茨城産及び兵庫産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、現在平均を下回る価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		68.70	52	43	44	68.70	・2.317t (112%)	愛知(18)、兵庫(17)、茨城(16)		
	ほうれんそう	372.27	567	527	477	372.27	・975t (119%)	茨城(30)、群馬(28)、埼玉(18)	↓	群馬産は、12月下旬以降の少雨や冷え込みの影響により生育が停滞していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。茨城産及び埼玉産は、12月下旬以降の少雨や冷え込みの影響により生育が停滞していることから、現在の出荷は平年を下回るものの、最近の降雨により生育は回復傾向にあることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 12月中旬から出荷量が減少し徐々に値を上げて現在平均を上回る価格は、群馬産の出荷が平年を下回ると見込まれるものの、茨城産及び埼玉産の出荷が平年並みと見込まれることから、平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		394.15	453	478	470	394.15	・375t (131%)	福岡(41)、徳島(25)		
	レタス(結球)	245.96	220	228	199	245.96	・3.153t (122%)	静岡(44)、長崎(9)、千葉(9)	→	静岡県産、長崎産及び千葉産は、天候に恵まれて生育が前進していることに加え、大玉傾向となっていることから、現在の出荷は平年を上回る出荷となっているものの、前進出荷の影響により残量が減少していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 12月下旬から出荷量が減少し徐々に値を上げて中、静岡県産、長崎産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を下回る価格は、今後は平均並みで推移する見込み。
		244.82	219	218	183	244.82	・937t (133%)	兵庫(44)、長崎(21)		
果菜類	きゅうり	379.15	470	405	396	379.15	・3.237t (123%)	宮崎(32)、千葉(19)、群馬(15)	→	宮崎産、千葉産及び群馬産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 12月下旬から出荷量が増加し徐々に値を下げて現在平均並みの価格は、宮崎産、千葉産及び群馬産の出荷が平年並みと見込まれることから、引き続き平均並みで推移する見込み。
		358.27	448	381	376	358.27	・1.252t (127%)	宮崎(35)、高知(20)、徳島(12)		
	トマト(大玉)	383.22	256	271	288	383.22	・3.272t (122%)	熊本(35)、栃木(22)、愛知(12)	→	栃木産は、天候に恵まれて着果状況も良く肥大も進んでいることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。熊本産及び愛知産は、天候に恵まれて着果状況も良く肥大も進んでいることから、現在の出荷は平年を上回っているものの、成り疲れの影響がでてくることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 栃木産の出荷が平年を上回ると見込まれるものの、熊本産及び愛知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を下回る価格は、平均に近づくものの、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		348.99	250	267	282	348.99	・1.346t (143%)	熊本(67)		
	なす	417.24	366	392	442	417.24	・759t (106%)	高知(83)	→	高知産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		390.96	347	378	419	390.96	・338t (140%)	高知(35)、福岡(26)、熊本(24)		
ピーマン	578.80	576	669	704	578.80	・669t (112%)	宮崎(45)、高知(21)	↓	宮崎産及び高知産は、12月上旬中旬の曇天が続いた影響で花落ちしたことに加え、樹勢が低下していることから、現在の出荷は平年を下回るものの、12月下旬以降は好天に恵まれて生育は回復していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 12月中旬から出荷量が減少して徐々に値を上げ現在平均を上回る価格は、宮崎産及び高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、今後は平均並みで推移する見込み。	
	565.30	554	634	661	565.30	・339t (113%)	宮崎(35)、鹿児島(27)、高知(21)			
根菜類	だいこん	79.03	64	60	63	79.03	・5.418t (101%)	神奈川(63)、千葉(30)	→	神奈川産は、天候に恵まれて順調な生育の中、他品目の農作業の影響で現在の出荷は平年並みとなっているものの、同作業は終了することから、今後は平年を上回る出荷の見込み。千葉産は、天候に恵まれて生育が前進した影響で露地物の残量が減少している中、太物傾向の出荷が続いていることから、現在の出荷は平年並みとなっているものの、2月以降はトンネル物の出荷が増加してくるから、今後は平年を上回る出荷の見込み。 12月下旬から出荷量が減少し徐々に値を上げて現在平均並みの価格は、神奈川産及び千葉産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、今後は平均を下回って推移する見込み。
		80.47	56	48	50	80.47	・3.232t (105%)	長崎(31)、徳島(24)、鹿児島(20)		
	にんじん	111.16	104	103	87	111.16	・4.966t (123%)	千葉(75)	→	千葉産は、天候に恵まれて順調な生育であり太物傾向であることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、現在平均を下回る価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
109.97		96	94	86	109.97	・1.362t (119%)	鹿児島(54)、長崎(18)			

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23～28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)であり、保証基準額の算定の基となる価格であることから、農林水産省で公表している「野菜の生産状況及び価格見通し」における平均価格(平成26～30年)とは異なる。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、赤字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成30年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載している(下記URLを参照)。
URL : https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

1 主要野菜の生産出荷状況

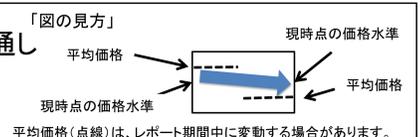
種類	1月の価格情報				2月の価格情報		2月の主産地	生育及び価格の2月下旬までの見通し	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格			(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	1月下旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率			
	上旬	中旬	下旬						
いも類	さといも	240.29	309	281	290	240.29	・301t (100%)	埼玉 (34)、千葉 (32)	↑
			(129%)	(117%)	(121%)				
		219.65	344	298	280	219.65	・102t (134%)	愛媛 (64)、中国 (17)	↑
		(157%)	(136%)	(127%)					
ばれいしょ		103.85	112	110	109	103.85	・4,489t (111%)	北海道 (74)	↑
			(108%)	(106%)	(105%)				
		103.85	110	107	107	103.85	・1,616t (98%)	鹿児島 (52)、北海道 (30)	↑
			(106%)	(103%)	(103%)				



注：1 平均価格は、過去6カ年（平成23～28年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）であり、保証基準額の算定の基となる価格であることから、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平均価格（平成26～30年）とは異なる。
 2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
 4 主産地は、東京都及び大阪府中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成30年実績である。
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。
 6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載している（下記URLを参照）。
 URL：https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

1 主要野菜の生産出荷状況（特定野菜）

種類	1月の価格情報				2月の価格情報		2月の主産地	生育及び価格の2月下旬までの見通し	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格			(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	1月下旬の東京及び大阪市場の入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率			
	上旬	中旬	下旬						
洋菜類	ブロッコリー	300.88	389	458	441	300.88	・754t (130%)	愛知 (34)、香川 (22)、熊本 (9)	↑
			(129%)	(152%)	(147%)				
		318.91	335	399	412	318.91	・243t (143%)	徳島 (36)、長崎 (17)、和歌山 (8)	↑
			(105%)	(125%)	(129%)				



注：1 平均価格は、過去5カ年（平成23～28年）の東京都及び大阪府中央卸売市場の価格。
 2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪府中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
 3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 4 主産地は、東京都及び大阪府中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成30年実績である。
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。
 6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載している（下記URLを参照）。
 URL：https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

2 野菜の輸出入動向 — 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について —

〇輸入について
 貿易統計によると、平成30年12月の生鮮野菜の輸入量は、7万8千トン（前年同月比94%）となった。また、加工野菜は、16万7千トン（同103%）であり、野菜全体では、24万5千トン（同100%）となった。このうち、中国産の輸入数量は合計で13万4千トン（同97%）と輸入量の55%を占めた。
 12月の生鮮野菜の輸入量は、7月中旬以降の天候不順により国産野菜の出荷量減少で9月から前年を上回って推移していたが、11月に入り国産野菜の潤沢な出荷により輸入量は減少し平年並みとなった。当月における品目別の動向をみると、生鮮野菜で輸入量が第1位のたまねぎは2万7千トン（同110%）、第2位のかぼちゃは1万4千トン（同96%）、第3位のにんじんは8千トン（同98%）となった。北海道を主産地とする品目（にんじん、たまねぎ等）は、天候不順等による出荷量の減少により、当該品目の輸入を大幅に増加させてきたが、国内の野菜市場における価格が落ちついてきたにんじんでは、前月から輸入量は減少し、12月は前年を下回った。同様に、台風24号による塩害が懸念されていたキャベツは、業務筋からの引き合いが強く輸入量が前年を大幅に上回って推移していたが、国内産の順調な出荷により、ここにきて急激に減少した。
 平成30年の年間の輸入状況を見ると、平成29年の秋からの全国的な天候不順及び夏季の猛暑に続く台風、北海道の天候不良等野菜生産にとって厳しい状況であったことを反映して、野菜全体の輸入量が293万トン（同106%）、生鮮野菜で98万トン（同114%）となった。特に露地野菜であり、天候の影響を受けやすい葉物類のキャベツは9万トン（同242%）、はくさいは1万6千トン（同642%）と大幅に増加した。

〇輸出について
 12月の輸出量は、生鮮野菜は1,281トン（同77%）、加工野菜は1,503トン（同107%）となり、野菜全体では2,784トン（同91%）と減少した。これは主要輸出品目のたまねぎの主産地である北海道における昨年の不作が大きく影響している。当月における品目別の動向をみると、生鮮野菜で輸出量が第1位のながいもが622トン（同70%）、第2位のいちごは、214トン（同149%）となった。
 2018年の年間の輸出状況を見ると、野菜全体では、2万8千トン（同84%）となり、また、品目別では毎年第1位のたまねぎは北海道の不作が影響し2,123トン（同19%）と大幅に減少、一方、ながいもは、5,929トン（同127%）、いちごが、1,238トン（同139%）と増加した。

野菜の輸入数量
 野菜全体の輸入量（平成30年12月）

区分	平成28年		平成29年		平成30年	
	前年比	数量	前年比	数量	前年同月比	数量
生鮮野菜	78,144	123	83,012	106	77,982	94
加工野菜	160,166	106	162,071	101	166,648	103
野菜合計	238,310	111	245,083	103	244,629	100
うち中国産野菜合計	130,135	108	138,476	106	133,978	97
中国産シェア	55		57		55	

主な生鮮野菜の輸入先（平成30年12月）

品目	輸入合計	1位		2位		3位	
		前年同月比	国名	数量	国名	数量	国名
たまねぎ	26,742	110	中国	23,407	アメリカ	3,335	-
かぼちゃ	13,810	96	メキシコ	13,752	オーストラリア	58	-
にんじん	7,694	98	中国	7,371	オーストラリア	297	アメリカ
ねぎ	5,659	93	中国	5,659	-	-	-
ごぼう	4,769	118	中国	4,757	台湾	12	-
ジャンボピーマン	3,343	89	韓国	2,877	ニュージーランド	466	-
キャベツ	3,273	64	中国	2,584	台湾	311	ベトナム
結球レタス	1,889	50	台湾	1,788	韓国	41	アメリカ

同（平成29年12月）

品目	輸入合計	1位		2位		3位	
		前年同月比	国名	数量	国名	数量	国名
たまねぎ	24,352		中国	23,737	アメリカ	591	タイ
かぼちゃ	14,388		メキシコ	14,138	ニュージーランド	175	トンガ
にんじん	7,831		中国	7,762	オーストラリア	54	アメリカ
ねぎ	6,068		中国	6,068	-	-	-
キャベツ	5,075		中国	5,006	韓国	37	オーストラリア
ごぼう	4,049		中国	4,013	台湾	36	-
ジャンボピーマン	3,770		韓国	3,194	ニュージーランド	572	オマーン
結球レタス	3,746		台湾	2,142	アメリカ	1,168	韓国

平成30年 年間野菜輸入量（1月～12月）

区分	平成30年		平成29年	
	前年比	数量	前年比	数量
生鮮野菜	983,485	114	862,073	100
加工野菜	1,944,952	103	1,890,040	107
野菜合計	2,928,436	106	2,752,112	105
うち生鮮野菜品目別				
たまねぎ	294,257	101	291,054	104
にんじん	110,579	126	87,950	-
かぼちゃ	103,170	107	96,058	82
キャベツ	92,358	242	38,189	161
ねぎ	66,921	111	60,076	108
はくさい	16,451	642	2,562	124

野菜の輸出数量
 野菜全体の輸出量（平成30年12月）

区分	平成28年		平成29年		平成30年	
	前年比	数量	前年比	数量	前年同月比	数量
生鮮野菜	5,596	74	1,675	30	1,281	77
加工野菜	1,172	115	1,399	119	1,503	107
野菜合計	6,767	79	3,073	45	2,784	91

主な生鮮野菜の輸出先（平成30年12月）

品目	輸出合計	1位		2位		3位	
		前年同月比	国名	数量	国名	数量	国名
ながいも	622		台湾	287	アメリカ	260	シンガポール
いちご	214		香港	176	台湾	19	シンガポール
キャベツ等	107		香港	82	シンガポール	22	タイ

同（平成29年12月）

品目	輸出合計	1位		2位		3位	
		前年同月比	国名	数量	国名	数量	国名
ながいも	887		台湾	491	アメリカ	334	シンガポール
たまねぎ及びシャロット	302		台湾	232	ロシア	48	香港
いちご	144		香港	114	台湾	21	シンガポール

平成30年 年間野菜輸出量（1月～12月）

区分	平成30年		平成29年	
	前年比	数量	前年比	数量
生鮮野菜	13,572	63	21,546	68
加工野菜	14,923	122	12,257	111
野菜合計	28,495	84	33,802	79
うち生鮮野菜品目別				
ながいも	5,929	127	4,662	76
たまねぎ及びシャロット	2,123	19	11,054	53
いちご	1,238	139	889	169
キャベツ等	1,011	55	1,848	172

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 斎藤、山田、長島 TEL03-3583-9793、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
 ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
 ★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。
 ※無断転載せず ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関しても、当機構は一切の責任を負いません。